

1. 授業の概要

本講義の目的は二つである。一つは法学の基本的知識の習得である。そして、いま一つは、社会で起きている様々な事象・問題を主体的に考えることを習慣化することである。本講義では、前者もさることながら、後者に力点をおく。社会で実際起こっている課題を現実的に即していかに克服するかを考えいくことは、教育現場で生じている多様な問題に対処する訓練にもつながるはずである。本講義では、教育現場で生じている法律学上の問題を取り上げ検討する

授業のスケジュールは、以上の通りであった。

第 01 回 ガイダンス

第 02 回 教育現場と憲法①憲法と社会の関わりについて

第 03 回 教育現場と憲法②校則と人権

第 04 回 教育現場と憲法③君が代と思想・良心の自由

第 05 回 教育現場と憲法④学校と信教の自由について

第 06 回 教育現場と憲法⑤教科書裁判

第 07 回 教育現場と憲法⑥教育を受ける権利と国際人権

第 08 回 教育現場と民法①民法と社会の関わりについて

第 09 回 教育現場と民法②いじめと民事責任について

第 10 回 教育現場と民法③体罰と民事責任について

第 11 回 教育現場と刑法①刑法と社会の関わりについて

第 12 回 教育現場と刑法②犯罪の成立要件について

第 13 回 教育現場と刑法③体罰と刑事責任について

第 14 回 教育現場と刑法④いじめと刑事責任について

第 15 回 まとめ

2. 授業評価の方法

成績はレポート試験による。場合によっては出席点およびディスカッションに対する貢献も考慮する。評価割合：レポート試験 90%、授業に対する貢献 10%。

3. 授業アンケートの結果

○講義内容は興味深いものばかりで、他人のいろんな意見を聞いて、自分の意見をかためることができ、様々な視点で学ぶことができたので、非常に有意義な時間でした。個人的に考えたことで

が、同じ意見を持った人で班をつくり、意見を共有したあと、違う意見の班と議論をするなどといった方法で授業をしてみてもおもしろいと思いました。

○私たちの身近な法について深く考えることができる有意義な授業だと感じました。特に、私たちが将来教員という立場に立った時、決して無関係でない事例について考えることができたということが非常に心に残っています。私たちは常に法とともに生活しており、もっと法についての理解を深めていく必要性を感じました。

改善点というより要望にあたると思うのですが、メールの受け取り確認も兼ねて何らかのコメント等を頂きたいです。受け取りの確認ができるので安心することはもちろん、今後のモチベーションにつながると思うので、ご検討よろしく申し上げます。

○法学は法学でも、教育と結びついていたので、これから教員になったときに巻き込まれそうな事例を知ることができて良かったです。ありがとうございました。

○もし来年も同じようなスタイルでやるのだとしたら、席の配置などを変えることでより発言しやすい雰囲気が生まれると思いました。今回だと、後ろの方に座っていて皆が先生の方を向いて話したり意見を言ったりしていて、発言者の顔が見えなかったり、後ろの方の人だと声しか聞こえないので誰が話しているのかわからないことも多かったです。そのため、あまりディスカッションのような雰囲気も出なかったし、活発な意見交換もしにくかったかなと感じました。人数もあまり多くないので、円のような形になったり、2つくらいに分けてグループ机にしたりなどできるかなと思います

4. 総括

受講生は、社会で生じる問題（ここでは教育上の問題）に正答はなく、様々なアプローチがあることに気付いたであろう。この点が面白さでありまた難しさでもある。今年度の講義は昨年度と同様の運営を行った。ただ、教育の視点（教師の視点）にどこまで固執するかは今後の課題である。いずれにせよ、今後も受講生が積極的に参加できる環境の整備に努め、よりよい講義にしていきたい。来年度はこの点の改善に努めたい。

なお、本講義の時間外の学習では、参考文献を読むこと以外に、講義の感想コメントを後日メールでの提出を義務づけ、毎回、自分なりの考えを持たせるように努めている。